

2019年度自己評価表

大成女子高等学校

教育方針	<p>私学は、建学の精神に則り、常に最先端の教育を行わなければならない。</p> <p>校訓である「誠実・協和・勤勉」の教えに従い、常に誠実な姿勢、協和を尊ぶ心、何事にも勤勉な態度を身を以て実現し、それを生徒達に還元すること。</p> <p>生徒・保護者には誠実に対応し、教育者としての尊厳を保ち、何事にも決して安易に妥協しないこと。</p>
教育目標	<p>多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成。</p> <p>良識ある母親として地域社会に融和できる女性の育成。</p>
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 女子に特化したキャリア教育を展開するべく、全職員でその実現に取り組む。 高大接続改革の動向に注意を払い、大きな変化に対応できるよう準備を怠らない。2学年から始まったeポートフォリオへの記録活動は全職員で支援する。 本校教育の根幹を成す小笠原流礼法を常に念頭に置いて立ち居振る舞い、生徒たちの見本となるべく精進する。 授業・学習支援クラウドサービス(Classi)、教務管理システム(スクールマスターZeus)の使用方法を習得し、ICTの利活用に積極的に取り組む。

校務分掌	重点目標	重点目標に対する方策	評価	総合評価	今後の課題
普通科	CAREER HANDBOOKを活用し、自己管理能力を高めさせる。	キャリアデザイン科で実施している内容を担任と共有し、生徒へ声がけを行い、HR等で活用する。また、2、3年生とも内容を共有し、できることを実践する。	B	A	2・3年生の手帳利用について、組織的な取り組みができていない。2020年度2年生から何らかの取り組みを行いたい。ただし、Classiの学習記録機能と重複する部分もあり、生徒にどのように取り組ませるか、検討する必要がある。
	生徒自身がキャリアを考える機会として、校外での活動や地域社会で活動する機会を増やす。	多くのボランティアを紹介したり、セルフインターンシップなどへの取り組みを促す。	A		
家政科	茨城県家庭部会事業に積極的に参加し、各事業を成功させる。(「県政広報コーナー」への展示等) 家庭クラブの活動を活性化させる。	それぞれの課題を把握し、生徒の多様な能力・適正、興味・関心などに応じて楽しく学べる学習環境をつくる。家庭クラブの年間行事予定を周知し、生徒が中心となって活動していくように、指導助言していく。	A	A	茨城県家庭部会事業に積極的に参加し、本校の活動を外部へ発信している。今後は、ICTを活用し、生徒の自主性を活かしながら、多様な生徒の興味関心を引き出していきたい。家庭クラブ活動は、今後も生徒へ周知し、今まで取り入れなかった活動も視野に入れ活性化させていく。コンクールへの応募は、積極的に行っている。今後も個別指導を継続し、入賞するよう、教員も研鑽を積んでいく。
	生徒それぞれの能力に応じ、生徒自身の実力を発揮できるよう、コンクール等への応募を促す。 SNS等による発信を活発にし、本校の活動を外部へアピールする。	それぞれの課題を把握し、生徒の多様な能力・適正、興味・関心などに応じて楽しく学べる学習環境をつくる。月1回、SNSを利用し家政科の様子を発信していく。	A		
看護科(高校)	自学自習できる生徒の育成を目指す。 朝学習、家庭学習時間の確保(平日2時間、休日3時間以上)をする。	動画による反転授業を行い学習への意識づけを行う。 Classi、スクールワークを用いた小テスト・課題を提示する。 キャリア手帳を活用しPDCAサイクルの定着を図る。(月1回の確認) eポートフォリオで日々の学習や模擬試験の振り返りを行い客観的に自己の課題を見いだせるよう指導する。	B	A	1年生の基礎看護技術においてはタブレットの活用ができた。実技科目であることから動画の視聴や生徒自身の実技を動画に収め振り返りの学習を進め、学習効果を得ることができた。またClassi、スクールワークからの課題配信や振り返りを行うことでICTの利活用することができた。そのことからeポートフォリオの蓄積ができた。キャリア手帳は各学年担任指導のもと定着に向けた指導がされている。自学自習ができるよう毎日生徒の意識に働きかけることも必要と思われる。
	生徒指導・進路変更の生徒をなくす。	生徒・家庭・学校間の連絡をClassiを活用し 密にする。 報告・連絡・相談の習慣を定着する。 学期ごとに生徒心得を確認する。 長期休暇中、ボランティア活動に参加する。 生活指導は繰り返し行う。	B		
看護科(専攻科)	2019年度修業生全員の看護師国家試験合格を目指す。	過去5年の国家試験問題を完全に実施する。(Classi活用) 自己学習・グループ学習を促進する。 成績低迷者への個別指導を強化する。 校外・校内模試結果を分析する。(模擬試験業者のデータとWeb復習活用)	A	A	模擬試験の結果分析から徹底した個別指導・面接指導を行った。年度途中からのグループ学習は成績低迷者の成績を上げる一つの方法として効果が見られた。結果は修了生全員が合格となり、引き続きこの方法を継続していくことが必要と思われる。
	地域に貢献する看護師の養成を目指す。(県内就職率90%以上、内80%以上は実習病院への就職とする。)	5月までに実習病院関係の就職・奨学金説明会を開催する。 実習病院入職卒業生との懇談会の実施やビデオレターによる交流を図る。	A		
教務部	本校教育目標・努力目標の達成のために、教育活動および校務の円滑な運営を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 単位時数に見合う授業時数を90%確保する。 行事の特定日への偏りを100%解消する。 行事日程、展開場所などの重複防止を100%にする。 試験日程2週間前発表実施 100%にする。 スクールマスターの使い方を周知させる。今年度は定期試験の個票をクールマスターで行う。 各種用度品・消耗品等の節約する。会議資料のPDF化で用紙代を節約する。 	A	A	授業時数の確保、行事日程・展開場所の重なり防止など、できて当たり前だが継続して取り組むものである。今年度は実施願い提出が行事実施日の前日ということも数件あったので、次年度は実施願の早期提出を実現したい。 スクールマスターの使い方は浸透してきている。入力ミスも昨年度よりは少なくなってきた。さらに入力ミスを少なくするために注意喚起が必要である。

	Classiの活用、授業でのiPadの活用を推進する。	教員向け研修、ICT担当による先生方へのフォローを充実させる。 各教科、情報科、進路指導部との連携を充実させる。 他校等の活用事例を共有し、教員の意識向上を図る。 Classiで利活用できるデータ等を共有する。 MDM担当教員によるiPadの管理を行い、授業等で活用できるよう工夫する。	A	新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休業のため、Classi、iPadの活用が一気に進んだ。また、本校の取り組みがNHKにより取材・放送され、先生方の意識が変化したと思われる。 新年度からのすららネットの導入も決定し、1学年生徒へのID・パスワード配付も終了。一部生徒からではあるが「これなら頑張れそう」とコメントを貰っている。教科での活用をどのように進めるか研修を重ねたい。	
学習指導部	ベネッセアセスメントにおける各学年・学科毎に学習到達ゾーンの上位ランクを増やし、下位ランクを減らす。	Classiの課題配信、Wwbテスト、学習マップ機能の活用を促進し、生徒の自己学習を促進する。 1年生はスタディープログラム学習教材の活用を図る。 各授業をAL、ICT活用をしたものに切り替えられるよう、研修、情報共有を充実させる。 アセスメント分析会を実施し、現状理解、データ活用を促す。	B	A	学習到達ゾーン人数の変化はほぼない。Classiの利活用が進み、多くの専任教員がClassi課題配信、Webテストを活用できるようになった。研修、アセスメント分析会を通して、現状理解は進んだと思われるが、成績向上のためにどのように授業等に活用するか、工夫には依然各教科、教員で差がある。次年度は研修内容を工夫し改善に努めたい。
	家庭学習時間を、各学年前年度最後の調査の状況より改善させる。	Classiの課題配信、Wwbテスト、学習マップ機能の活用を促進し、生徒の自己学習を促進する。 1年生はスタディープログラム学習教材の活用を図る。 Classi学習時間記録機能、アンケート機能を活用してアセスメント以外でも学習時間の調査を行うとともに、生徒保護者へ記録のフィードバックを行い、家庭での声がけをしてもらう工夫をする。	B		家庭学習時間の変化はほぼない。 生徒の学習内容を見ると「宿題はする」、時間は「ほぼしない」「30分以内」がともに40%強である。「宿題はする」という本校生徒の特徴から宿題を出し、必ず提出させることから学習時間を少しずつ増やしていきたい。
入試広報部	受験制度の工夫により受験者増につなげる。	より受験しやすい環境を整える。	A		受験制度の工夫については今後も検討していく必要があると感じるが、受験エリアの拡大を実現できていることから今後の広報活動へとつながる結果は出ている。
	大成の長所を伝え、生徒数増につなげて本学全体の発展に努める。	普通科・家政科・看護科の3学科の特性を広報する。	A	A	
	各教科・学科の具体的なiPad活用方法など本校教育の特長を広く広報する。	さまざまな行事や広報誌により、中学校・受験生との接点を多くする。	A		
厚生部	生徒の健康の保持増進を図る。 職員の健康診断について結果の改善に努める。	「well being」(保健だより教員版)を年2回発行し、健康に関する情報を伝える。 生徒の検診結果を通知文等を利用し、保護者に知らせる。 またClassiを利用し生徒の病院受診、治療を勧める。熱中症やインフルエンザなど早めに対策を取るよう促す。	B		「well being」(保健だより教員版)の発行が1回であった。紙以外の情報を伝える方法を検討する。Classiの利用頻度を高める。清掃時のチェック表を作成する。
	学校生活の環境を整える。	年2回、廊下、階段のワックス掛けを委員会で行う。 節電に努める。節電に協力してもらえよう保健便りやClassi等を利用し呼びかける。 毎日の清掃を通して、校内の美化に努める。清掃時のチェック表を作成する。	A	A	
	ホームルーム活動を通して、多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成を目標に自主的な態度や健全な生活態度を育てる。	・HRや全校集会を生徒の自発的活動の場とし、年に1人1回はみんなの前で発表する。全校集会は、今年は部活動の発表を重点的に行うが、部活以外の団体にも発表の機会を提供する。 ・奉仕活動の意義を理解させ、特に部活動に加入している生徒をボランティア活動に参加させる方法を進路指導部とともに検討し、実践する。	B		国体が終了したので、生徒会の全校集会のフォーマットを再度検討する。表彰に加え、生徒の発表の場、ボランティア活動の成果や募集、観劇など様々な取り組みが考えられる。
特別活動部	学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し集団への所属感や連帯感を深め、協和を尊ぶ心を養い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	・撫子祭ではクラスの団結を強め、また地域との交流を深められるような内容を企画する。 ・学校行事や撫子祭では生徒の自主性・協調性を養わせ、アンケート調査を実施し所属感や連帯感が深められたかを評価し、満足度を80%以上にする。110周年記念的な行事内容を検討し、実践する。	B	B	中学3年生をターゲットにした撫子祭の来校者数増加を目標に、生徒達と告知の方法や出し物の内容を検討する。
	部活動を通して、良識ある人間として地域社会に融和できる女性を目指すための能力を養う。	・生徒が部活動の充実と発展に努め、積極的に参加し入部加入率を75%以上にする。 ・部活動を通して地域社会に融和することや、貢献できるように各部で活動計画を立てる。 ・ブログなどを通じて、各部活動の様子を積極的に発信することを、各部活動に促す。特に、動画による情報の発信の方法を探り、広報に貢献できるようにする。	B		部活動の活動内容の発信を内外に行う方法を検討し、部活動への加入率をあげる。 今後、勉強・アルバイトとの兼ね合いを考え、活動日や活動内容について再検討することが求められる。

進路指導部	卒業時の進路決定率100%、 中でも大学、短大進学者を55%以上にする。 (今年度は94名以上) 姉妹校である茨城女子短大への積極的な進学を促す。	・生徒との面談や三者面談を通して、進路希望を把握し、適切な助言を与える。 ・専門学校希望者には、進路ガイダンスやHR等で慎重な進路選択を促す。 ・校外ガイダンスを全生徒へ告知し、積極的な参加を促す。 ・短大広報スタッフとの連携を強化し、内部特別入試説明会やコロキウムでの派遣を呼びかける。	A	卒業時の進路決定率97%、大学短大進学率53%、茨城女子短期大学進学者34名であった。 大学入試は予想以上の難化が見られ、専門学校へ志望変更したり、浪人をする生徒が出てしまった。2021年度は入試日程も変更になるため、より緻密な出願計画を立てる必要がある。
	就職課外を通し、就職への意識を高めると同時に、筆記試験と面接試験対策を行い、就職希望者の全員内定を目指す。 就職希望の生徒の意識改革(極力ハローワークを通じた就職活動)を行うように勧める。	・進路ガイダンスで、就職希望者に対し個別面接指導や筆記試験対策を行う。 ・高校新卒ハローワーク担当者に来校してもらい、生徒の個別相談や就職情報提供を行ってもらおう。特に家政科生徒が希望する職種について、多くの情報を頂けるように働きかける。	A	就職希望者は最終的に全員内定を得たが、研究・準備不足のため複数回の受験を強いられた。担当者が就職指導に不慣れであったことも一因。次年度は就職課外の時間を有効活用し指導を行う。
	生徒の希望進路実現をサポートする活動を企画、運営する。	・早期進路決定に向け、上級学校の情報収集を目的として、進路関連行事を計画的に行う。 ・3年 5月に進路ガイダンス、7月に志望理由・自己PR作成ガイダンスを企画する。 ・2年 5月に上級学校見学会、2月に進路ガイダンスを実施する。 ・1年 2月に進路職業ガイダンスを実施する。	A	精神的な理由で進路決定に向き合えない生徒が2名出た。クラス担任だけでなく、多方面から生徒にアプローチして根本的な解決を図るべきであった。
	大学入試制度改革に伴うe-ポートフォリオの運用方法を確立していく。 (Classi ポートフォリオ機能の活用)	・他校の先進事例を把握し、適切な時期に活動を振り返る時間を確保する。(1学年) ・他の先生方からも、さらに良い運用方法や事例について意見を募る。	D	Classiへの情報蓄積は始めたが、e-ポートフォリオにデータ移行する部分の研究ができていない。早急に行うべきである。また、県立高校では「キャリアパスポート」を運用するよう指示が出ており、これについての研究も必要である。
生徒指導部	1. 基本的な生活習慣の育成 ・正しい制服の着用および容姿を整えさせる。 ・正しい言葉遣い、挨拶の徹底化させる。 ・正しい学習態度を身につけさせる。	・学年主任及び教員による立哨指導で注意喚起を行う。 ・定期的な校内・校外巡視などを実施し、問題行動を起こさせないようにする。 ・礼法指導及び授業の開始・終了時の挨拶の徹底を図る。 ・制服セミナーによる制服着用の注意と指導を実施する。 ・各教員が気づいた時にその場で注意を行う。	A	校内外巡視、毎朝の学年主任との立哨、1・3学年合同HRでの話により、本年度も服装が大幅に乱れた生徒は影を潜めた。しかし先生方の生徒への積極的な声かけが少ない。本年度の課題として積極的に先生方にアナウンスという点に欠けていたからかもしれない。そこで次年度も継続課題としたい。また指導部での月1回の立哨も1人で実施だったので、次年度はできる限り指導部のメンバーを巻き込んでチームとして実施することも課題としたい。
	2. 情報モラルの育成 ・SNS関連のトラブルの発生を防止する	・情報担当教員との連携を図り、情報の授業が中心となるが、そればかりではなく関連する授業全てを通して情報モラルを向上させるための指導を行う。 ・茨城県メディア教育指導員・警察などによる講話指導等を通して注意を呼びかける(危機感の育成を図るため)。 ・HR、礼法さらには様々な活動を通して、コミュニケーション能力と他人への思い遣りの心の育成を図る。	A	機会があるたびにClassiを使いSNS使用による問題点を伝達してきた。その結果が功を奏したのか、今年度のSNSに関する生徒指導は少なかったように思われる。昨年度からの課題である、目標にもっと近づけるために、新しい形態の何かを次年度も課題として模索したい。
	3. 教員相互の連携を図り指導にあたる ・学年間の連携にとどまらず、教員相互の密な関係を構築することによりスムーズな指導につなげる	連携を図るため、情報の共有化を図る。	A	学年内及び学年間での情報共有は、学年主任同士や学年主任と生徒指導部との連携で情報共有がはかられているように思う。次年度は全学年教員が1つにまとまり対応できるように指導部が指導力を発揮することが課題である。
メディア統括部	「元気で活発な学校」「きめ細かい指導をする学校」「特色のある学校」というイメージをつくり、在校生・保護者・中学生・地域・同窓生等に広く伝え、受験者増、入学者増、学校の評価の向上に繋げる。 Wi-Fiおよび環境を整え、学習指導部と連携してICT活用授業の拡充を図る。	ToSay!プログラムの更新を週4回以上、YouTubeへの投稿を年8回以上行う。 道路沿いの横型懸垂幕を活用し、年間を通して常に掲示できるようにする。 学校指定iPadが滞りなく活用できるようにネットワーク環境を整備する。	A A A	本校Webサイトをリニューアルできたので、今後はサイト内の情報更新と閲覧しやすいレイアウトを検討する。プログラムの更新、懸垂幕による情報発信を今後も継続していく。 SNSでの情報発信は、準備・取材・撮影・編集・投稿と非常に時間がかかる。その作業時間を業務として捻出してもらおうことが今後の課題である。
図書館部	図書室を積極的に利用させ、読書の習慣を身につけさせる。 生徒図書委員会の運営を充実・発展させる。	・生徒・職員が利用しやすい環境づくりを行う。 ・各分掌、学科・コース、学年と連携し、良書を選定し購入する。また、各教科、学年と協力して読書指導を行う。 ・ICT機器の正しい利用の仕方と著作権に関する理解を深めさせる。 ・委員各自が運営方針に沿って活動できるようサポートをする。 ・図書委員を校外研修会へ参加させる。 ・選書会議(生徒・職員による)を毎月行い、図書費の有効活用を図る。	A A	生徒や教員のニーズに応え、購入図書を選定し、館内整備を行っているため、利用者数は一定数を維持することができた。 蔵書管理システムの移行計画が完了していないが、司書の作業効率の向上やレファレンスの充実のためには喫緊の課題である。次年度の長期休業期間を利用して、教員や生徒を動員して作業を進める予定である。 委員会の運営は順調で充実しているが、外部の生徒研修会には引き続き参加させ、委員生徒のさらなる意識向上に努めたい。進路指導部や学習指導部との連携を深め、進路決定に役立つ情報の提供を目標に活動していきたい。

1学年	1 基本的な生活習慣を身につけさせ、規律ある生活をさせる。 (安易な欠席、遅刻、早退をなくさせ、年間5回以上の遅刻者数を10名以下にする。) 昨年度10名	<ul style="list-style-type: none"> 面接や適性検査を実施し、生徒の理解に努める。 挨拶や言葉遣いを大切に、正しいコミュニケーションがとれるよう指導する。 生徒の変化(言動、服装など)に対して早めに対処する。 SHR時に生徒の服装を確認し、正しい服装をさせる。 学習環境の美化に努めさせる。 下校時には、机の中及び机の両脇に何も置かない。 ロッカーの中を整理整頓する。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活態度、挨拶、身だしなみについて常々指導しているが、自ら考えて行動、実践することは徹底できなかった。しかし、礼法の授業が有り、その指導は新鮮で将来に活かせるとの反応があるので、普段の姿に活かせるよう指導したい。 遅刻5回以上については目標を達成することができた。遅刻者に対する個別指導は効果があった。 環境の整備は、ロッカーを片付けることは出来ている生徒がいるが、物を移動しての整理ではなく、教科書の持ち帰りとともに、家庭学習(予習・復習)を定着させたい。
	2 基礎学力を向上させるとともに、目標をもった生活をさせる。 (国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者を、学年人数40%以上にする。(昨年度国語テスト 69人36.5%) 各種検定試験の受験を促し、漢検・英検3級資格取得者を学年人数の20%を目指す。昨年度30人 15.9%(家政科の検定除く))	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の課題(宿題)を通し、家庭学習の習慣及び基礎学力の向上を図る。 上級学校の見学、各種ガイダンス、インターンシップへの参加、キャリアデザインの授業を通して、進路意識を高める。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 国語テストの年間成績優秀者は学年人数の28.6%、英単語テストの年間成績優秀者は学年人数の21%であり、目標の40%には届かなかった。各種検定試験(漢検・英検・数検・秘書検)3級資格取得者は学年人数の31.6%で目標に到達することができた。インターンシップの参加によって、進路意識が高まったのは事実であるので、さらに進路を見据えて、検定試験に挑戦し、合格に向けて指導を重ね、自ら積極的に取り組ませたい。
	3 ICTリテラシーが向上するよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> クラスの諸連絡にClassiを活用するなど、様々な場面にiPadを活用する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への連絡手段としてClassiは日常的に使用している。今後更にICTリテラシーが向上するよう取り組みたい。
2学年	1 基本的な生活習慣を身につけさせ、中堅学年としての自覚と責任感を育てる。(学校生活・社会生活における規律の遵守、健康の管理と維持、時間の遵守と挨拶の励行) → 誓約書を伴う生徒指導を5名以下にする。 → 年間5回以上の遅刻者を10名以下にする。	<ul style="list-style-type: none"> 服装・髪型等について生徒指導部と連携して、各ホームルーム・合同ホームルーム等で継続的に指導を行う。 遅刻カードを活用し生徒個々の遅刻回数を把握し、個別指導をする。 HRでの講話等を通して規則正しい生活を心掛け、健康の維持管理に努めさせ、欠席・遅刻・早退を減らす。 生徒の変化(言動、服装など)に対して早めに対処する。 	B	2学年ということもあり生徒指導が昨年度よりも増えてしまった。やはり気の緩みからか、髪の色・無断アルバイト・ピアス・夜遊び等での生徒指導があり目標を達成できなかった。遅刻5回以上のものはほぼ目標内であったが生徒によっては多い者がいるので今後減らすように指導していきたい。さらに教育相談を受ける生徒が減少した。
	2 主体的・自主的学習態度の育成と基礎学力の向上を図る。(家庭学習の習慣化と進路を見据えた学習の徹底、自己分析と具体的進路目標の設定、各種検定試験や校外模擬試験などへの積極的参加と新テストへの対策及び学力の増進) → 国語テスト・英単語テストの各成績優秀者を学年人数の40%を目指す。 → 実力診断テスト(1月実施)の学習到達ゾーンD段階の生徒を40%以下にする。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の定着を図り、生徒一人一人が主体的・意欲的に学習に取り組む姿勢を育て学習の伸長を図る。 学習支援センターの活用を通して不得意教科の克服を図る。 進路説明会、進路ガイダンス、各学校の見学会への積極的参加やキャリアデザインの授業を通して進路意識を高める。 各種検定試験や校外模擬試験の受験を促し、準備対策をして合格率を高める。 高大接続改革の動向に注意を払い、新テストに向けての情報を的確に得て準備対策に取り組ませる 	B B	全体的に基礎学力が十分でない生徒が多くキャリア進学の中で学力診断テスト等でDゾーンの生徒がかなり多く40%以内は達成できなかった。学習する習慣を身につける指導をさらに力を入れていきたい。進路に関する意識が少しづつ出てきて積極的にオープンキャンパスに参加する生徒が出てきた。大学入試の改革変更で戸惑いもあったが、新しい情報をキャッチしながら対応していきたい。
	3 社会性を持たせ、高校生活の充実を図る。(友人間の円滑なコミュニケーションの構築、学校行事や特別活動への積極的な参加、ボランティアなど地域社会への貢献)	<ul style="list-style-type: none"> 友人間のトラブルが生じないように行事等の団体行動を通して思いやりの心を持たせる。 修学旅行、撫子祭等の学校行事や部活動、ボランティア活動に積極的に参加し、個性の伸長および連帯意識の高揚を図るとともに地域社会への貢献を推進する。 保護者、地域との相互のコミュニケーションづくりを推進し、社会の中で生徒を育成する。 	A	友人間のトラブルはほとんどなかった。また全体ではないが、部活動やその他ボランティアなど積極的に活動できたと思う。特に修学旅行では生徒がよく約束を守り大きなトラブルもなく有意義な旅行が実施できた。
3学年	1 学校行事や活動を通し、最高学年としての自覚と責任感を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> スポーツフェスティバル・文化祭などの学校行事に全員参加させることで連帯感や達成感を体得させる。 生徒会、部活動、委員会活動などで、後輩を指導することにより、責任感を養わせる。 	A	クラス担任と生徒のコミュニケーションがよく取れており、学校行事等の欠席者が少ない学年であった。個別の面談も適宜実施し、生徒の実態把握に努めることができた。学校生活に目標を持たせ、進路決定に向けて舵を切れたことと、進路ガイダンス等の情報提供の場を設けたことから、概ね希望通りの進路を決定することができた。しかし、進路指導部とより綿密な受験計画を練り、学年教員間で情報共有を深め、さらに十分な指導に当たることで、進路未決定者や浪人を選出した生徒数を減らせたのではないかと反省もある。
	2 集団生活の中で規律ある態度を養い、社会で通用する人間性を育む。 ・挨拶・言葉遣い・身だしなみ・時間を守る・清掃など、当たり前のことをきちんとさせる。 特に遅刻については年間5回以上の者を10名以内にする。	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活では校則の周知徹底を図り、遵守できない者には個別に指導を行う。 SHRや合同HR、集会など機会ある毎に、時間を守ることや、挨拶、身だしなみ、聞く態度等について指導する。 	A A	生徒会、部活動、委員会等においては、生徒が最高学年としての責務をよく果たし、自ら考えて行動できたことは大きな成長であった。 2学期以降は、受験指導で繁忙を極める担任に偏りすぎずに、学年全体で生徒の心理面や生活面をサポートできる体制を整え、生徒間のトラブル防止を強化するべきであった。
	3 学力の向上をはかり、進路決定を実現させる。 ・進路決定率100%、大学短大進学率を55%以上を目指す。 ・各校内一斉テストの成績優秀者数70名を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上と家庭学習の徹底をはかる。 生徒の進路希望を把握するために、少なくとも各学期1回の個人面談を行う。 進路指導部と連携し進路に関する最新情報の入手に努め、生徒に情報提供する。 進路ガイダンスを行い、生徒の進路意識の向上を図る。 	B	月例テストの優良者は英単語が目標の67%、国語テストが93%の達成率で、目標達成には届かなかった。入学時からの継続的な学習により基礎学力が身につけている者が多い。入学時から身につけた基礎学力が受験の合否も左右していることを踏まえ、今後の指導に活かしたい。

国語	基礎的な学力を充実させ、表現力・理解力を養	授業を通して、読む・書く・聞く・話すの学習活動を実践する。	A	各学年ともに語彙力をつけるために国語テストを実施した。宿題にしたりなどして取り組ませてきたが、提出することは習慣づくもそれで満足感を覚えるだけで終わってしまう生徒が多くいた。成績優良者（平均80点以上）3年生 65名、2年生 43名、1年生 49名である。1年生の優良者がかなり減ってしまった。各自の自学自習の習慣づけの一つとさせたい。表現力・理解力を養わせるという点に於いては、授業の中に書くこと、発表することを組み入れた。今後は教科内の研修を充実させ、よりClassiやスクールワークの活用を進ませ、教科指導の工夫を計ってきたい。
	生徒の学力にあった系統的な指導をする。	学年ごとの指導内容を精査する。また、学習課題ノートを活用し、単元ごとの内容の理解を把握する。Classiを利用して、生徒の学力にあった動画配信をする。	A	
	進学・就職の目標を達成させるため、国語テスト等の学習を通して国語力の向上を図る。	国語テスト等の単元ごとの課題提出を行う。Classiやクラスルームを活用し、自学自習を習慣化する。	B	
地歴	時代の流れ・各時代の重要な出来事・重要人物について知る。また、地図を通して基本的な地理的な見方や考え方を身につける。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、DVD映像などの視聴覚教材を利用し知識の定着を図る。iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴化の中での共有を図る。	B	iPadの利用に関して ・定期的な動画の配信を、計画して行う。 ・その際、他教科とのバランスを考える（配信曜日の振り分けなど）。 ・授業中、集合知の「見える化」のツールとしてメンチメーカーの活用を行う。その際、生徒のメールアドレスが有ると、さらに有効活用できるので、メールアドレスの取得をお願いしたい。
公民	政治的分野・経済的分野・倫理的分野の基礎用語の意味を理解させ、身近な社会との関係について知る。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、新聞を活用し、時事問題などを取り上げて知識の定着を図る。iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴化の中での共有を図る。	B	
数学	学習習慣を定着させる。	・定期的に課題を配布する。特に、定期試験前の小テストの学習や定期試験後の課題の提出を徹底させる。 ・家庭学習においてiPadを活用する方法を検討する。	A	定期試験の課題配布や提出を定期試験毎に行うことができた。また、苦手な生徒を学習支援センターの利用に繋がったことから、学習支援センターの個別指導により基礎学力を補うことができた。新年度から導入する「すらら」の活用方法を確立させ、学力の向上を図りたい。
	基礎学力の向上を図る。	・1年普通科は習熟度別でグループの学力に合わせた授業を行う。 ・学習の理解度を把握し、個々に応じて指導を行い、学習支援センターの利用を促す。	B	
理科	論理的思考力を向上させ、科学的な興味関心を高めるとともに、タブレットを活用し、Web上の映像と実験を通して理解を深めさせる。	・単元毎、または章毎に生徒実験を実施し、実験後は必ずレポートを提出させる。 ・日常生活で利用されているものを教材として多く取り上げ、必要に応じて演示実験やWeb上の映像を活用する。	A	各分野ごとに基礎的な実験を行うことができた。今後は、単元毎・章毎の実験実施を目標とし、論理的思考が育成できるように内容についてさらに工夫していきたい。各教員ともPC、タブレット端末を使い工夫していたので、日常生活と関連した教材を活用しながら、自身で考え、自ら探求する能力を身につけさせたい。
	シラバスに沿って予定通りに教科書の内容を指導する。問題演習を通し、基礎的知識の定着を図る。	必要に応じて問題演習等の宿題を課し、定期試験の他に小テストなどを行う、また、単元毎にポートフォリオを提出させ、必要に応じて個別指導を行う。	A	
保健体育	運動能力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わう。また体力の向上をはかり、公正、協力、責任などの態度を身につけさせ、社会生活における健康、安全に理解を深め自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身につけさせる。	個々の運動能力に合わせて到達技能を設定し、全員がクリア出来るように指導する。 種目の選択とともに、グループを編成し個々の役割を実践させる。	A	縄跳びなどは合格する人数が増えてきているが、合格した者にさらに上のレベルを目指させることと、運動能力が低い生徒にどうアプローチしていくかが今後の課題である。
芸術	音楽・美術・書道に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を表現するための基本的能力を伸ばす。	・音楽では鑑賞に加えて楽典や声楽のテストを実施する。 ・美術・書道では基礎的な表現技法を習得させ、鑑賞能力を養うことで創作活動に取り組ませる。 ・ICT機器を活用し、鑑賞力を向上させる。	B	定期試験を実施しない代わりに、鑑賞レポートや作品の提出、小テストを実施するなどして評価を行った。また、音楽ではピアノの発表、美術書道では展示の機会を設け、日頃の学習の成果として生徒の創作活動をサポートすることができた。次年度は鑑賞や作品の制作・発表の場として、ICT機器を利用しようと考えている。
		・文化祭などの学校行事における発表や、校外の展覧会への出品を通して積極的に表現活動へ挑戦させる。	A	
外国語	iPadなどICTの活用を伴うライティング力を中心に英語表現力向上を図る	日記活動による「書くこと」の継続的指導をする。	A	日記活動・英単語テストの実施・英語での授業展開のいずれも十分な実施内容を展開できた。特に、iPad利用の授業や各活動は理想的な取り組みになってきている。
	基礎力の充実を目的に語彙力の向上を図る	英単語テストを実施する。	A	
	iPadの活用を伴う英語による授業展開方法と方法の研究開発をする。	英語で展開する英語授業の実践とiPadを活用した授業展開の研究を行う。	A	

家庭	各学年、選択コースにおいて、目標とする技術検定試験を100%合格させる。	検定の課題と評価について教員間で共有し、研鑽を積む。実技等、生徒個人のレベルに合わせ、補習授業などを行う。実習では、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。	A	技術検定は、目標は達成できているが、生徒個人のレベルの差が大きく、個別指導が多い。今後は、実習でもICTを活用し、学校だけでなく自宅でも実技の練習に取り組めるように、指導方法等、検討工夫していく必要がある。家庭部会事業には、積極的に参加し、本校の活動を外部へ発信している。今後は、家庭クラブ活動も、SNS等で積極的に発信していきたい。コンクール等の情報発信は、積極的に行っている。今後も、積極的に情報発信を行い、生徒自身の課題について指導助言をしていく。	
	茨城県家庭部会事業に積極的に参加し、成功させる。（「県政広報コーナー」への展示、学校家庭クラブ活動など）	それぞれの課題を把握し、生徒の多様な能力・適正、興味・関心などに応じて楽しく学べる学習環境をつくる。	A		
	家庭科関連のコンクール・コンテストに積極的に応募するよう、生徒たちに情報を提供していく。	生徒自身の課題について、計画・実践・評価・改善の各プロセスにおける指導助言を十分に行う。	A		
情報	自分に必要な情報を正しく読み取り、適切な情報伝達方法と情報発信能力を育てる。また、適切なコンピュータリテラシーを身につけ、情報伝達の方法と情報発信の危険性について理解する。	ワープロソフト・プレゼンテーションソフトを活用し、ひとり1回以上は発表する機会をもつ。	A	SNSを悪用した被害の実例を挙げながら情報モラルの授業を行ったが、他人事のような意識でいる生徒が多い。自身の問題として意識させることが今後の課題である。プレゼンテーションは、作成の途中で授業が終了してしまったので、発表まで進められるように年間計画を再検討する。	
		SNSなどネットトラブルに巻き込まれないための知識が身に付くように、実技を交えた情報モラル指導を徹底する。	A		
看護	基礎的な看護技術の定着を目指す。 (放課後の実習室利用率を60%以上に維持する。また、主要基礎技術の確認試験の合格률을100%とする)	<ul style="list-style-type: none"> 放課後実技練習はICTを活用する。 実習室使用許可願の管理・集計をスクールワークで管理できるようにする。 主要基礎技術(ベッドメイキング・全身清拭・足浴・バイタルサイン測定)の確認試験および再試験を実施する。 	A	A	放課後の実技練習は使用率87%と目標を達成し概ね看護技術の定着が図られたと考える。しかし実技練習は生徒が主体的に実施していることからICTの活用は不明である。確認試験はベットメイキングの再試験を実施したが、合格できない生徒が出てしまった。全身清拭は新型コロナウイルスの感染防止の観点から休業を余儀なくされ再試験は実施できなかった。休業解除後、再試験は実施する予定である。
礼法	小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わりを円滑に出来る生徒を育成する。	礼法研修に積極的に参加し、家庭科教員の意識向上をはかる。学校生活の基本である始業の礼、終業の礼の意味を理解させる。また、日常生活における立ち居振る舞いなど、礼法の基本を理解させる。	A	A	礼法は教科書を読み、動作等について復習し、常に家庭科教員の意識向上を図っている。今後も、指導方法について情報交換を行い、生徒自身に礼法の基本を理解させられるよう、授業内容について充実を図っていく。
キャリアデザイン	II Bについて、昨年度の反省を踏まえ、各フィールドともプログラムを修正し、より良い形で実行する。また、次年度2年生のiPad活用に向けてプログラムの修正を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 外部団体との打合わせは時間的余裕を持って、綿密に行う。 キャリアデザイン科内で情報共有を十分に行い、プログラムの完成に向けて協力する。 次年度に向けてのプログラム修正検討を早期に行う。 	A	A	キャリアデザイン科内での情報共有を十分に行ない、他フィールドの意見も参考にし、各フィールドともプログラムの修正を行いながらより良い形で実行することができた。次年度以降、各フィールドとも探究型へ移行することを進めたい。
	IAのENAGEEDのデジタル教材の活用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 業者による研修を行う。 指導内容の修正を行い、iPadの活用を工夫する。 	A		デジタル教材を導入し活用が進んだ。生徒の基礎学力の向上を図ることでさらに良い形で授業を行うことができると考えられる。
	キャリアで学習したことを進路決定に活かせるよう、担任・学年へのフィードバックを行うとともに、生徒自身が適切に表現できるよう、サポートを徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 推薦、A0入試に向けて、進路指導部と連携し、教科全員でフォローを行う。 	A		各フィールド担当者が個に応じて進路指導のサポートを行うことで、推薦・A0入試等に役立てることができた。進路指導部と連携し、シラバスの内容を工夫するとともに、時間的余裕を持って行い、より高度な内容で表現できるようサポートを徹底したい。